

## Life is like a box of chocolates

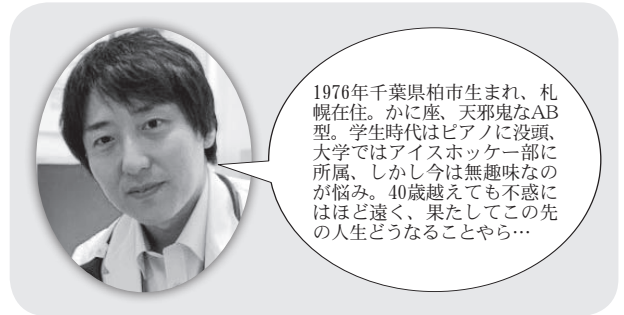
### ～人生は玉手箱～

あさぶハート・内科クリニック 院長 福島 新

小樽協会病院産婦人科・黒田敬史先生よりバトンを引き受けました。黒田先生とはお仕事の関係というより、病院の忘年会で余興を夜な夜な練習した仲間です。「御机下」で交わすやり取りよりも医師同士の連帯感は忘年会でこそ養われるというものです。

私は2013年に北海道大学卒業後、循環器内科に入局し道内の各拠点病院を研修した後に大学院へ進学し学位を取得、ここまで比較的典型（と思われる）医師のキャリアを歩んできました。転機は2014年にカナダ、エドモントンに研究留学したことです。留学先のツテもコネもなく、当時は新築したばかりで貯蓄どころか多額のローン。夢のような話でしたが、何度もトライして助成金を獲得し、毎晩夜遅くに（現地時間では朝一番に）英語でメールのやりとりをし、ついに現実のものとなったのです。留学という響きは良いですが、実際は想像以上の困難の連続。誰も期待していなかったのですが、不思議と日本代表の心づもりで一旗揚げる、現地に爪痕一つくらいは残そうという思いに駆られ、必死にもがきました。しかし、焦燥感が裏目に出て家族との仲は険悪となり、衝突ばかり。3歳の娘と1歳の息子を連れていきましたので、お互いに生活だけで大変だったと思います。お金もなく言葉も通じず、狭いアパートと研究室を往復する日々でしたが、週末はスケートに行ったり友人宅でバーベキューをしたり、幸福でもありました。第3子の海外出産という稀有な経験までついてきましたが、現地の同胞に何度も助けられて2年間の留学を無事終えました。

研究としては心不全や糖尿病の心筋エネルギー基質変化の役割をテーマに数本の論文がアクセプトされ、帰国後は大学で科研費をはじめとした研究費を獲得し、後進の研究指導、そして重症心不全の診療と業務に忙殺される日常に戻りました。このまま家



1976年千葉県柏市生まれ、札幌在住。かに座、天邪鬼なAB型。学生時代はピアノに没頭、大学ではアイスホッケー部に所属、しかし今は無趣味なのが悩み。40歳越えても不惑にはほど遠く、果たしてこの先の人生どうなることやら…

族との時間を犠牲にしてアカデミックポジションに固執することを人生の目標とするのか、そんな疑問に直面したとき、カナダでの人間としての豊かな生活が思い出され、もう一度新たな挑戦をしたくなりました。ちょうどその折、馴染みのある札幌市内北区麻生で医療モール開業の物件情報が飛び込み、背中を押された形で本年4月にあさぶ・ハート内科クリニックを開院。自宅購入、海外留学、今度は開院資金と多額の借金を抱えるとは、普通はあり得ない人生設計です（笑）。ただ幸いにも、開院当初から多くの患者さんに来院いただき、また後ろには看護師の妻、消化器内科医の弟、そして優秀な従業員がサポートしてくれ、充実した毎日を送っています。海外から日本を見ると単一民族国家ならではの視野の狭さを実感するもので、人生は一度きり、後悔がないよう思いっきり自由に人生を謳歌すること、そして家族を大切にすることをカナダでの生活から学んだように思います。

来年度からは診療報酬の引き下げなど、クリニックにおいても厳しい状況が予想されますが、地域の皆様が利便性良く、安心して医療を享受できる診療の充実・分院の拡大を目指し、今後も邁進する所存です。“Life is like a box of chocolates”。先の見えぬ人生だからこそ面白い、これからも一期一会を大切にしていきたいです。

次は地域で奮闘する本物の臨床家、南幌町立病院院長・山内 純先生へバトンを託します。



カナダ、エドモントンの湖畔での家族写真